

## 真土大塚山と三角縁神獸鏡の発見

— 昭和時代前期 —

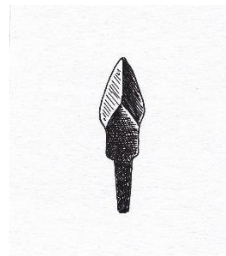
「おーい、ちよつとこっちに来てみる。土の中から何か出てきたぞ」

鈴木桑次郎くめじろうが、親戚の倉吉しんせき くらきちを呼びました。

ここは、大塚山おおつかやまと呼ばれ、小高い丘のようになっていて真土しんどでは一番高いところですよ。

倉吉の持つ土地で、そこに生えていた松の根株ねかぶを取り除こうとしていたときのことでした。

振り下ろした鍬くわが、土の中の何かにあたり、掘り出してみると、それは古い刀の一部の





ようでした。

「これはもしかしたら、お宝発見か  
もしれないぞ。もう少し周りを掘っ  
てみよう」

すると、ほかにも鏡かがみや鍬やじりなどが  
出てきたのです。昭和十年（一九三  
五）三月十八日のことでした。

翌日、石野瑛あきらいのもとに一本の電  
話がかかってきました。

「石野先生ですか、県職員おおのの山田と  
言います。今、中郡の大野村から、

古代の鏡などが発見されたとの報告があつたんです。急で申し訳ありませんが、明日、私と一緒に現地に行ってもらえませんか」

「授業は、昨日で終わったので、大丈夫です」

石野は、師範学校（教員を養成する学校）を出たあと、横浜小学校をはじめ、いろいろな学校に勤めました。歴史学や考古学に興味があつて、本を書いたり、歴史に関わるいろいろな委員にもなったりもしました。

次の日、二人は横浜駅から東海道線（とうかいどうせん）に乗り、平塚駅で降りました。最初に向かったのは、大野第一小学校（現大野小学校）です。

対応したのは、校長と二人の先生です。この地域（あち）のことについて説明しました。

「この小学校の裏辺り（あた）からは、土器が出ています。大塚山のある真土でも、いろいろなところから土器などが出ています。また、隣村の豊田村（とよだ）では、弥生式土器（やよひしきどき）が見つっています」

「なるほど、この近くには四の宮の前取神社まへとりがあり、平塚には八幡神社があります。いずれも古い神社です。この辺りは、早くから開けた土地ひらだったようですね」

その後、先生たちの案内で、大野村のいくつかの場所を訪れあと、大塚山へやってきました。遺物などが出てきたときのようなすなどの説明を聞き、簡単な調査を行いました。

「この丘は、古墳こふんとみて間違いないでしょう。それもこの近辺ではかなり大きなものだ。埋葬まいされた遺物からも、このあたりでかなり力のあつた者の墓そとでしょう」

このとき石野は、この大塚山の古墳を前方後円墳ぜんぽうこうえんふんだと考えました。大きさは、南北が六〇メートル五五センチ、後円の直径は一五メートル六〇センチでした。ですが、翌年再び調査したときは円墳えんふんに訂正しました。

この古墳の中央四〜五メートルの範囲から多くの遺物が出ていたところから、ここが墓あひの主の埋葬あひされていた場所であることがわかりました。また、造られたのは四世紀後

半と考えられます。

桑次郎が掘り出した鏡は、青銅製せいどうせいで、割れていくつかに分かれていましたが、幸いすべてがそろっていたので、その原型がわかりました。鏡の縁の断面は三角形で、四体の神像と二体の獣像が彫ほられているところから、三角縁四神二獣鏡さんかくえんししんにじゅうきやうと呼ばれます。また、漢字が二四文字彫ほられていました。

掘り出した桑次郎たちは、調査の結果を聞いて、こう申し出ました。

「こんなすごいお宝を俺たちが持っていたってしかたがない。歴史研究のために使ってほしい。帝国博物館ていこくほくぶつかん（現東京国立博物館）にお渡ししたい」

これに対し帝国博物館は、この発掘された品々を三九五円（当時）という高額で買い取りました。そうして、二人は「昭和のはなさかじいさん」と呼ばれたのでした。

現在、古墳の形態は、前方後円墳、円墳、前方後方墳ぜんほうこほうふん説があります。また、鏡の存在か

ら、ヤマト王権（大和朝廷）とのつながりも指摘されています。

作・画／平塚てづくり紙芝居の会 たもん丸